



板橋区

体協ニュース

第87号

平成25年3月25日発行

「りんりんちゃん」



Itabashi Amateur Athletic Association News

公益財団法人
板橋区体育協会〒174-0051 板橋区小豆沢 3-1-1 小豆沢体育館3階 TEL:03-5915-5568 FAX:03-5915-1705
URL: <http://www.itabashi-taikyo.or.jp/>

平成25年度 事業計画

平成25年度の事業計画が下記のとおり決定された。

1 区民体育大会等の競技会、講習会・研修会、スポーツ教室、レクリエーション、その他体育、スポーツの普及振興に関する事業(第1号事業関係)

(1) 第66回都民体育大会

選手団結団式 平成25年4月24日(水)
文化会館4階大会議室

開会式派遣 平成25年5月12日(日)
東京体育館

種目別競技実施 平成25年5月～6月及び
夏季・冬季

閉会式派遣 平成25年6月16日(日) 都庁

(2) 第66回区民体育大会

開会式 平成25年9月8日(日)
小豆沢体育館



昨年の区民体育大会開会式

(3) 都民生涯スポーツ大会・都民スポレクふれあい大会選手派遣 平成25年4月～11月

(4) シニアスポーツ振興事業(東京都体育協会共催事業)

(5) 第38回 高島平・日刊スポーツロードレース大会
平成25年10月20日(日)
(日本陸連公認 高島平周回コース)

(i) 20km (制限時間90分)

スタート 9:50

大学男子の部

一般男子の部

一般女子の部

(ii) 10km (制限時間55分)

スタート 8:47

一般男子の部

40歳代男子の部

50歳代男子の部

60歳以上男子の部 一般女子の部

(iii) 5km (制限時間35分) スタート 8:30

高校男子の部 高校女子の部

一般男子の部 一般女子の部

(6) 板橋Cityマラソン

平成26年3月23日(日)

板橋区荒川河川敷特設会場

(7) 平成25年度東京都スポーツ少年団競技別交流大会

(8) 平成25年度スポーツ少年団第27回城西ブロックスポーツ交流大会 平成25年6月～8月

(9) スポーツ教室・レクリエーション等

(i) 水泳教室 4施設 各1回(区委託事業)

(ii) ぜん息児水泳教室 1回(区委託事業)

(iii) 区民ハイキング 年間2回実施

第1回 平成25年5月25日(土)

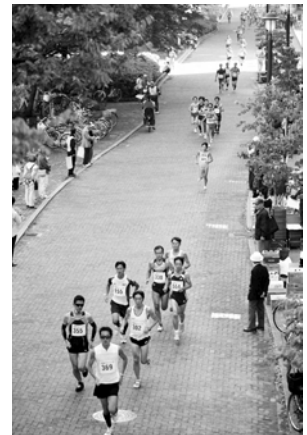
栃木県・奥日光

第2回 平成25年10月26日(土)

長野県・北八ヶ岳

2 区民のスポーツ競技力の向上を図るための事業(第2号事業関係)

ジュニア育成地域推進事業(東京都体育協会共催事業)



昨年の高・日ロードレース風景

3 指導者養成のための講習会及び研修会事業（第3号事業関係）

(1) 青少年スポーツ指導者講習会

スポーツ指導者及び指導者を目指す者を対象に講義・講習会を実施し、指導者の資質の向上を図る。

- 第一講座 平成25年6月7日(金)
文化会館4階大会議室
テーマ：「体幹コンディショニング」
講師：岡田 隆
- 第二講座 平成25年9月6日(金)
文化会館4階大会議室
テーマ：未定 講師：野口眞利
- 第三講座 平成25年12月6日(金)
文化会館4階大会議室
テーマ：「本気で励ます！」
講師：岩崎由純

(2) 審判講習会（3団体）

(3) 指導者養成講習会（3団体）

加盟団体内指導者の充実を目的とする。

(4) 中級者スポーツ講習会（6団体）

競技スポーツを愛好する中級者の資質向上を目的とする。

(5) 救急・救命講習会

平成25年7月20日(土)13:30～16:30
文化会館4階大会議室

(6) 指導者交流研修会（旧指導者研修会）

平成25年6月22日(土)23日(日) 福島県棚倉町
体育協会役員・理事、評議員、加盟団体会長・理事長及び代表委員を対象に研修会を実施し、資質の向上を図る。

4 東京都及び板橋区から受託する体育、スポーツ、レクリエーション事業（第4号事業関係）

(1) 被災地支援事業（スポーツ交流事業）

東京都、都体協共催



昨年の小学生バレーボールの交流

(2) 第36回板橋区少年少女サッカー選手権大会
平成25年7月

5 同一目的を有する他団体との連携協力を図るための事業（第5号事業関係）

- 城北五区体育協会連絡協議会

6 体育功労者及び功労団体の顕彰（第6号事業関係）

- (1) 板橋区体育協会体育功労者表彰
- (2) 飯田金廣賞

7 前各号の事業を推進するために行う加盟団体育成事業（第7号事業関係）

- 加盟団体の育成強化に資するため助成金を交付する。

8 機関紙及び刊行物の発行（第8号事業関係）

- (1) 板橋区体育年鑑 1000部（10月発行）
- (2) 体協ニュース 各1000部（年3回発行）

9 本条に定める事業の遂行に必要な財源調達を図るための事業（第9号事業関係）

(1) 賛助会員募集事業

本協会の継続的かつ健全な事業活動を維持するため、本会の目的・活動に賛同する方や企業を対象に賛助会員の募集を行っている。

(2) 自動販売機事業

体育協会事務所及び体育施設利用者の利便向上を図るため自動販売機により清涼飲料水を提供している。販売収入については本協会公益事業財源の一部としている。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（第10号事業関係）

(1) 評議員会

- 定時評議員総会 平成25年6月24日(月)
小豆沢体育館多目的室

(2) 理事会

- 定例理事会 毎月第三水曜日
小豆沢体育館多目的室

(3) 加盟団体代表委員会

- 平成25年5月20日(月) 小豆沢体育館多目的室
- 平成26年2月24日(月) 小豆沢体育館多目的室

(4) 加盟団体会長・理事長会

平成25年10月30日(水) グリーンホール

(5) 運営会議

- 定期的に理事会の前週土曜日に開催する。

(6) 専門部会

- 必要に応じて総務部会、財政部会、事業部会、広報部会を開催する。

(7) ホームページの運営

本協会の概要、事業計画、各事業の募集案内・開催状況報告及び協会加盟団体の事業計画、連絡先を紹介し区民がいつでも気軽にスポーツに親しめる環境を作る。

(8) 新年賀詞交歓会

平成26年1月29日(水) 文化会館4階大会議室

(9) 板橋区体育協会報告会(評議員会・都民体育大会)

平成25年7月12日(金) 文化会館4階大会議室

賀詞交歓会開催

新年賀詞交歓会が1月29日(火)板橋区文化会館大会議室において坂本健板橋区長、下村博文文部科学大臣をはじめ総勢126名が出席して開催された。

下田賢司体育協会会長は、

- 1 本年度は体育協会のホームページを充実すること
 - 2 区民体育大会の運営は無駄を省き無理のない大会にすること
 - 3 高島平・日刊スポーツロードレースについて見直すため検討委員会を近々発足すること
- 等区民に役立つ体協にしていくなために活動する旨の挨拶があった。



下田会長の挨拶

坂本区長は、

- 1 本年東京都で開催される国民体育大会の一環として板橋区では「ウォーキング」を行うこと
- 2 区民の子どもからお年寄りまでスポーツをするよう取り組むこと

等の挨拶があった。

また、坂本区長、下村文部科学大臣、松岡しげゆき板橋区議会副議長、菅東一都議会議員各氏からオリンピックおよびパラリンピックが東京に招致できるよう支援、活動をしているとのことであった。

和やかな雰囲気ではが行われ、交流を深められた中でお開きとなった。

(佐々木陽子 記)

青少年スポーツ指導者講習会「全体講演会」

テーマ：大きな夢 希望！

「熱いおもいは子ども達に伝わる」

講師：坂本博之先生

元東洋太平洋ライト級王者 19連勝達成 平成のK Oキングと呼ばれた世界タイトル戦の畑山戦は後世に残る名勝負
「こころの青空基金」を主宰、養護施設支援

日時：平成24年12月4日(火) 午後6時30分～

会場：板橋区立 文化会館大ホール



講師に元東洋太平洋ライト級王者の坂本博之氏を迎え青少年スポーツ指導者講習会の全体講演会が、12月4日(火)に板橋区立文化会館大ホールで開催された。

坂本氏は、1970年に福岡県に生まれ、幼少の頃両親の離婚を機に預けられた親戚の家で辛い思いをした。その後施設で過ごすことになった少年時代の話から講演が始まる。

回 空腹と虐待で死をも思った幼少期！

生まれてすぐ両親が離婚して、しばらく乳児院で育てられた。その後、母親と一緒に暮らしていたが、いろいろな事情で弟と一緒に遠い親戚の家に預けられた。しかし、その家で兄弟は完全に邪魔者扱いされトイレを使わせてもらえなかったこともあった。ご飯もたまたましか食べさせてもらえず、小学校に入学すると一日の食事はお昼の給食のみ。その給食も

残して持ち帰り、夕食にするなどした。

預けられた家のおじさんから虐待もずいぶん受けた。何かにつけて殴られた。殴られ続けて顔が大きくはれ、死を考えたこともあったと言う。自分一人だったらどうなっていたかわからない。弟がいたからこそ踏ん張ることが出来たとふりかえった。

その後は、弟さんと福岡の和白青松園という児童養護施設で生活していた。

☐ テレビ中継を見てプロボクサーへの夢を持つ！

プロボクサーになろうと思ったきっかけは、7歳のときにテレビで見たボクシングの試合だった。そのときのことは今でも鮮明に覚えている。とにかく大きな衝撃だった。ブラウン管の向こうのリングがものすごく華やかに見えて、あっち側へ行きたい、今の状況から脱したいと強烈に思ったと言う。

☐ 学生時代にボクシングをする余裕はまだなかった！

8歳の誕生日を児童養護施設で迎えたが、その後母親が迎えに来て、5年ぶりに家族で生活する幸せを得た。9歳の時に母親と一緒に上京、ボクシングは施設のテレビで見てからずっとやりたいと思っていたが、働きながら学校に通っていたのでとても部活に入るといふ余裕はなかった。アルバイトをしながら埼玉県小松原高校を卒業した。

☐ やっとボクシングジムへ入門、チャンピオンへ！

高校卒業と同時にボクシングジムへ入門し、2年後にはプロデビュー。日本ライト級チャンピオンとなった。その後96年には東洋太平洋チャンピオンとなり19連勝を達成した。「打たれても打たれても前へ」のボクシングスタイルは「平成のKOキング」とよばれ、世界タイトルに4回挑戦するが僅差で及ばなかった。2000年10月の「畑山戦」は後世に残る名勝負と言われている。

☐ 突然襲ってきた腰痛という悲劇！

畑との伝説の一戦に敗北した坂本氏は、その直後、ボクサーの生命線ともいえる腰の手術をする。不屈の執念で2年7カ月という長期間のブランクとリハビリを乗り越え再起戦のリングに立つも、またもや敗北を喫してしまう。すでに身体はボロボロだった。しかし、リハビリを続け最後まで現役にこだわった。

☐ 伝えていかなければならないことがある！

自身の生い立ちにより経験してきたこと、15年間のボクシング生活において学んだこと、ボクシングをすることによって人からの愛情や情熱を受け自分が変わることができた経験等を広く伝えたい。

ボクシングを引退してからは、SRSボクシングジムの会長として世界の頂点をめざす後進の指導にあたりるとともに、児童虐待やいじめ防止へのメッセージを発信し続けている。

特に今の子供たちにいろいろなことを伝えていかなければいけないという使命感をもっている。だから声を大にして伝えたい。どんなことがあってもあきらめな。挫けてもいいから這い上がれ。その力が人間にはある。それを信じろ。怖いことなんか何もないと。

☐ 養護施設を支援する！

主宰する「こころの青空基金」は、すべての子供たちは平等でなくてはならないという理念で、自分のファイトマネーの一部を資金として設立した。当初、少年時代の施設への恩返しをこめた支援として始めたが、「すべての子ども達は平等に」という理念から、全国の児童養護施設で生活する子ども達への支援活動を行なっている。

児童養護施設への訪問を続ける傍ら、学校関係を始め多岐にわたる講演活動を全国的に展開している。

ゆくゆくはボクシングという枠を超えて、恵まれない環境から社会に巣立とうとする子ども達を支援する拠点とすることが夢となっている。

☐ 信念は「熱！熱を持って接すれば熱を持って返ってくる」

坂本氏の「熱い講演」は、このように語っている。生きることに真剣な姿が、講演全体に渡って感じられ、将来を背負っていく若い人たちには、『夢とそのための努力を諦めないこと』が、自らの夢をかなえるただ一つの道であることや、その姿が周囲の人々にも夢と希望を与えると言うことを教えていただいた。

講演対象者であるスポーツ指導者および指導者を目指す者は勿論のこと、それ以外の一般参加者にも大いなる感銘を与えた講演であった。

(八木二三雄 記)

連盟協会だより

サッカー連盟

オリンピック・パラリンピックを東京で

2020年オリンピック・パラリンピック東京招致気運醸成事業の一環として板橋区より委託を受け、サッカー連盟が2件の行事を行った。

まず、平成24年11月13日(火)18:30~20:30、板橋区文化会館大ホールにおいてサッカー女子日本代表監督・佐々木則夫氏の講演会を開催した。観客は850名と多数の方の参加を得た。佐々木氏は、板橋区との関わりとして、小学生の一時期、板橋区立中根橋小学校に通学した思い出や、高校はサッカー界の名門・帝京高校でサッカー部キャプテンとしてインターハイで優勝した経験等を語った。また、W杯優勝、ロンドンオリンピック銀メダル獲得への過程やなでしこ選手のことに触れ、今後も「なでしこジャパン」が世界の頂点に居続けていきたいと抱負も語った。

参加者は、オリンピックの東京開催を実現して、目の前で「なでしこジャパン」のプレーを応援したいと強く望んだのではないかと思う。

時には冗談を交えた講演は、聴衆を釘づけにしてあっという間に時間が過ぎた。



前列中央：佐々木則夫監督

第2弾は、平成24年12月23日(日)10:00~11:30、小豆沢野球場において、キッズサッカー教室を開催した。講師としてJリーグのFC東京から6名のコーチを招き、講師の助手として連盟少年部より指導資格保有者8名があたった。

参加者は、応募して当選した小学校1年生と2年生および就学前の児童の80名にその保護者の合わせて100名。4グループに分かれ、就学前の子供は保

護者と一緒に汗を流した。コーチの方々は子供たちが興味を持つ方法で教室を盛り上げていた。子供たちは、サッカーの楽しさ、面白さを肌で感じてくれたと思う。寒い日だったが会場は熱気に包まれた。

教室後半にはJリーガーで板橋区出身のMF橋本拳人さんやGK常澤聡さんが会場に来た。参加者はサインをしてもらったり、一緒に記念写真を撮ったりと、一生忘れられない日になったことだろう。

参加者が今後もサッカーをずっと続けていきたいと思ってくれたなら幸いだ。



キッズサッカー教室

こういう地道な活動が、オリンピック・パラリンピックの招致の気運に貢献できればと思う。

(福手敏夫 記)

少林寺拳法連盟

感謝や礼をつくす人格づくり

親子で少林寺拳法

少林寺拳法は、性別はもちろん年齢に関係なく始めることができる。技を磨き、運動能力を高めるのはもちろん、基礎体力を培い、健康のために始める人もいる。人を思いやり、感謝や礼を尽くす人格づくり、リーダーとしての資質を育てることを目的とする人もいる。子育てのさまざまな問題に心を痛める今、少林寺拳法は親子の絆づくりにも役立つだろう。

自分を見つめる 二人で見つめる

少林寺拳法では、二人がともに呼吸を合わせ、まるで会話を楽しむように技をかけ合う。相手の動きを理解するという想像力を養いながら、体全体でコミュニケーション力を培っていくのである。少林寺拳法は、人を思いやる心を育てる「行」なのである。

『半ばは自己の幸せを 半ばは他人の幸せを』

少林寺拳法は、競い合うのではなく二人で協力して技を練習する。自分のことだけでなく他人のことも考えられる人になることを目指す。それが少林寺拳法の考え方である。少林寺拳法の技は、わが身を守るためのものなので、小さい子供も、力のない女性もみんなと一緒に練習し、親子でも技をかけ合いながら楽しむことができる。それが少林寺拳法なのである。

区立体育館で親子で少林寺拳法を始めよう！

小豆沢体育館武道場 木曜日 土曜日 午後6時より
上板橋体育館武道場 火曜日 土曜日 午後6時より
東板橋体育館武道場 水曜日 土曜日 午後6時より

少林寺拳法はきびしさとやさしさを身につけ、それを行動原理として生きることを目指す。愛をともしなわなない力は暴力であり、力や行動をともしなわなない愛もまた無力である。力と愛の調和のないところに正しい生き方は育たないと言える。少林寺拳法は「教え」の道である。社会生活になくてはならない礼を身につけ、人間同士が認め合い、尊重し合い、互いに援け合って平和で豊かな社会をつくること、それが『人づくり』を目的とする少林寺拳法なのである。

(菅原勉 記)

柔道連盟

東京都24地区対抗柔道大会

昨年12月9日(日)に第57回東京都24地区対抗柔道大会が講道館において開催された。

この大会は東京23区と三多摩を合わせた24地区からなり、1部8チーム、2部16チームで構成されている。そして上位8チームが1部としてA、Bの2ブロックに分かれてリーグ戦を行い各ブロックの最下位チームが翌年は2部に降格となる。一方、2部は16チームでのトーナメント戦を行い上位2チームが入れ替えて翌年に1部昇格となる。

板橋区はここ数年代表選手や監督の頑張りにより1部で活躍していた。

本年度は、第1試合 板橋区 1 - 1 荒川区で引き分け。第2試合 板橋区 2 - ② 三多摩で惜しくも内容により負け。第3試合 板橋区 0 - 3 世田谷区で負けとなり残念ながらAブロック4位で来年度は2部リーグからの出直しとなった。

中学校の柔道授業協力者養成講習会

2月23日(土)に講道館において3回目の指導者講習会が開催された。

すでに昨年度から中学校では武道選択として柔道の授業がはじまっており今のところ大きな問題はないものの、やはり柔道経験者による授業の補助ということも考えていかなければならないのではないかと思う。

今回は中学校柔道授業の授業協力者(外部指導者)に対する講習会で文部科学省からの指導もあり、〈全柔連公認指導者資格〉の取得者が今回の授業協力者養成講習を受講することが授業協力者の条件となっている。

板橋区柔道会としても今後優秀な指導者育成のため取り組みを強化していかなければいけないと考えている。

(中山俊昭 記)

水泳連盟

月曜日教室

平成2年から高島平温水プールで行っている水泳連盟主催の教室である。途中リニューアルのために1年間休みとなったが、平成23年9月に再開した。現在一般コース・アクアコース・小学生コース・幼児コースがあり、年間通して活動している。幼児・小学生コースはたくさんの参加者があり、予約待ちになるほどである。また、成人対象の一般・アクアコースは、初めて水に入る人も含めて体力・泳力に応じた練習を行っている。一般・アクアコースでは、開講以来継続している人を対象に毎年、10年・20年継続表彰を行い「継続は力なり」を推進している。

これからも当連盟では、教室を通して水に親しみ、水泳の普及・技術の向上・健康増進に努めていきたいと考えている。

(高橋晴美 記)



一般コースの皆さん



アクアコースの皆さん

アーチェリー協会

全日本アーチェリー連盟公認 第14回高橋・菅谷杯インドアオープン大会

年が明けて全国でもっとも早く開かれる全ア連公認試合が板橋区アーチェリー協会主管の高橋菅谷杯インドアオープン大会で1月12日13日に開催した。参加賞として板橋区内で製造販売されているカリン糖を配り、全国から集まるアーチャーに板橋区の産業をアピール。大変好評であった。

会場は明るく暖房のきている小豆沢体育館で2日間にわたって行われた。土曜日午後1部、夜に2部、そして日曜日に3部が行われた。中学生から社会人、マスターまで都合のいい時間を選択できるようにした。出場者総数190名の全国屈指の大きな大会だ。全日本アーチェリー連盟公認のため、高得点を出せば全日本選手権出場の資格が得られる。



小豆沢体育館での熱戦

オリンピック出場選手や全日本選手権優勝選手、国体強化選手も参加した。特に活躍が目立ったのが5人の中学生。去年までは危うい面もあったが、今年はルールを熟知しマナーも向上、成績も上位に食い込むほど上達した。アーチェリー界の期待の星だ。

2日間を通じての最高得点者（RC部門）はオリンピック銀メダリスト山本博さん。並み居る大学生

の強豪を押さえての優勝はさすがである。

(井草健二 記)

バドミントン協会

創立50周年 記念式典・祝賀会

晩秋の11月23日(金)18時より板橋区文化会館4階大会議室において、板橋区バドミントン協会創立50周年記念式典および祝賀会が約130名の参加で盛大に開催された。

式典は、島田稔副会長の「開会の辞」、原正人会長の「あいさつ」に続き、来賓の坂本健・板橋区長から祝辞を頂いた。区長は今年のロンドンオリンピックで女子ダブルスがバドミントン競技として、初の銀メダルを獲得したことにより国民のバドミントン人気さがさらに高まる事を期待している。協会においても活動を通じ、生涯スポーツの推進に力添えをしてほしいとのことであった。続いて板橋区体育協会下田賢司会長・東京都バドミントン協会浅岡武会長から祝辞を頂戴した。

その後坂本区長より、板橋区バドミントン協会に「感謝状」が授与された。



坂本区長から感謝状授与

続いて原会長より、根岸知子名誉会長に「感謝状」「板橋レディース」、「中台クラブ」の2チームに「表彰状」を授与した。

祝賀懇親会は、千葉明理事長の「開会の辞」で始まり、板橋区体育協会高澤誠専務理事・東京都レディースバドミントン連盟竹内ヒロ子会長から祝辞を頂いた。

板橋区体育協会加藤勝一副会長に「乾杯」のご発声をいただいた後楽しい懇親会へと続き、いろいろな賞品のある抽選会も行われ、終始和やかな会となった。高谷勇監査の「閉会の辞」で50周年記念行事がお開きとなった。

板橋ジュニアバドミントンクラブの紹介

平成21年から、渡部、根岸の協会理事2名が指導者となって、ジュニア育成に取り組んでいる。

小・中学生を対象に、志村四中、志村三中で、週2回、約20名（男女半々）を指導している。

あいさつやマナーはもとより、最近の子供たちは筋力が無いので基礎体力作りとして、走りこみ、筋トレを行い、バドミントン基本のラケットワーク、フットワーク、ゲーム練習を中心にレベルアップに励んでいる。将来板橋から優秀な選手が巣立ってくれる事を願っている。（小林恵子 記）

**フロアボール協会
第65回板橋区民体育大会
ネオホッケー大会開催**

1月20日(日)に板橋区立小豆沢体育館においてネオホッケー大会を行った。

本年度は男子・混成の2部門とし男子3チーム混成7チームが出場し、各チーム6試合8分ハーフ(16分)の試合で熱戦が繰り返された。

試合結果は以下の通りであった。

男子の部

- 優勝 高島平モンスター
- 2位 大原ヤングジャガース
- 3位 スペシャルブレンド

混成の部

- 優勝 坂上・加賀
- 2位 中板ウインズ
- 3位 高島平オバンシスターズ



優勝2チームの選手

*国際大会を「フロアボール」、国内大会を「ネオホッケー」と称する。（佐々木陽子 記）

武術太極拳連盟

**第65回板橋区民体育大会・
創立10周年記念大会**

平成24年11月17日(土)小豆沢体育館において第65回板橋区民体育大会、第4回板橋区武術太極拳競技大会(創立10周年記念大会)を開催した。

小雨ふる日、超多忙な中、早朝より駆けつけた坂本健板橋区長から区民スポーツの振興と発展に多大な貢献をしたことを評価されて武術太極拳連盟に感謝状が授与された。



坂本区長から感謝状

開会式後、入門太極拳と簡化24式太極拳の講習を行なった。参加された高澤誠体育協会専務理事、下村博文武術太極拳連盟会長他来賓の方々にも堪能して頂けたと思う。

当日はかなり雨も激しく、観客の人数が少なかったのは残念なことであったが、怪我人もなく無事終了できたのは普段の会員全員の鍛錬と優秀な連携プレーの賜物と自画自賛している次第である。

また下村博文会長が、新内閣で文部科学大臣になられたことは板橋区民のみならず連盟の会員にとっても誠に誇りとするところである。国や世界は勿論、板橋区民の幸せのためにも大いにその力を発揮して頂きたいと心より期待している。（奥野智久 記）

編集後記

「体罰」や「いじめ」のニュースを見ていて「貧すれば鈍する」という言葉を思い出した。体罰は日清・日露戦争まで遡れるという。資源を持たない国が精神力で戦力をカバーしようとしたことにあるというのだ。まさに貧乏が原因で頭

の働きが鈍く＝考えなくなったのである。いじめも同根だろう。人を思う気持ちや志が貧しくなり、考えが鈍くなったのである。精神と志を豊に保ち、伝える「言葉」を持ち続けたい。（藤野一郎 記）